



美しい田園風景が広がる十勝平野(芽室町の新嵐山より)

畜産部門は2251億円で前年比5%増。過去最高額(19年と20年の2148億円)を更新した。20000億円の大打撃は4年連続になった。
酪農は前年比3%増。乳価はやや下がったが、通年で前年を上回る生乳生産を維持した。肉用牛は5%増。コロナ禍による外食需要の減少を受けた前年と比べ、枝肉価格や素(もと)牛取引価格が堅調に推移した。

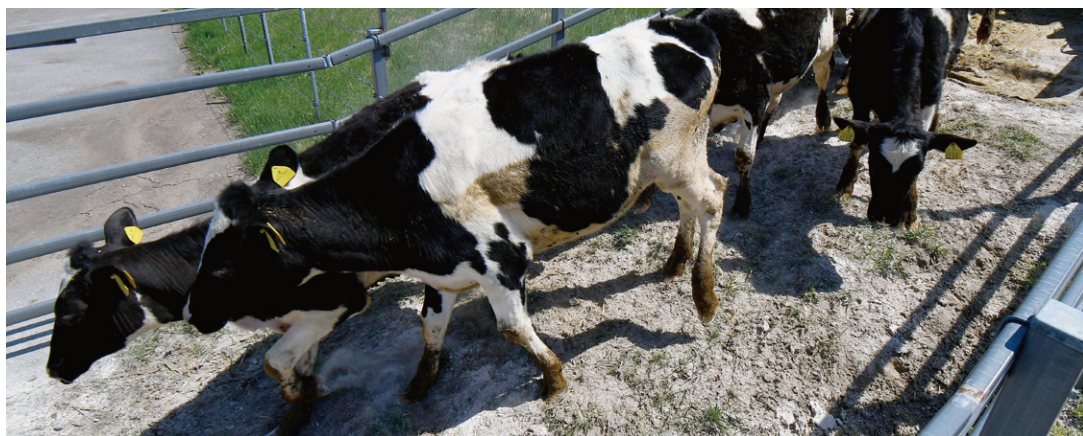
コロナ禍長期化の中 安定供給目指す

十勝の酪農は規模拡大が進む。これに加え昨年は、飼料と牧草、サイレージ用トウモロコシも良い調製ができたなど餌にも恵まれ、乳量が増加した。ただ、コロナ禍の長期化を受けて、国内の牛乳・乳製品は業務用を中心に需要が減少し、脱脂粉乳やバターの在庫が積み上がったことで、処理不可能乳の問題が浮上。年末年始の需要減に伴い懸念された生乳の大量廃棄は避けられなかったが、春休みやゴールデンウィークなどが続いて再び対応に迫られている。

右肩上がりだった生産現場は生産抑制に直面。酪農現場に早期乾乳や低能力牛の淘汰(とつた)を進めるなどの努力が続いている。

肉用牛については、コロナ禍による、訪日外国人旅行者(インバウンド)需要の喪失などで外食向けが落ち込む中、家庭での「巣ごもり需要」やネット販売・ギフト利用が支えて堅調に推移した。昨夏以降は配合飼料の価格上昇、燃料や肥料の高騰といったコスト高が続ぎ、さらにウクライナ危機の影響を関係者は注視している。

十勝の農業生産力の指標としてフー



放牧地に着いてトラックから降りる乳牛(音更町の大牧牧場)

ドバレーとかち推進協議会が算定している食料自給率は前年から119ポイント増の133.9%(カロリーベース)に上った。
十勝地区農協組合長会の有塚利宣会長は「コロナ禍で国産農畜産物の安定供給の重要性が再認識される中、安全・安心でおいしい十勝の農畜産物を、安定的に国民の皆さんにお届けしていくことを誓う」と話している。



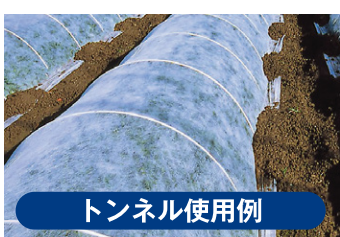
十勝の大地で
愛されている
農業用不織布

光線透過率90% 農業用ベタがけ資材
パオパオ 90

苗床や圃場を作物ごと柔らかく包み込み、作物にとって良質な生育環境を保ちます。

特長

- 高い光線透過率
- 目付け20g/m²・繊維が太くて丈夫



トンネル使用例



じかがけ使用例

 三菱ケミカルアグリドリーム

北海道営業所
〒060-0807 札幌市北区北7条西4-3-1 新北海道ビル TEL. 011-746-6282 FAX. 011-746-6296